

次期「新潟市一般廃棄物処理基本計画」の基本的事項に係る清掃審議会委員ご意見一覧

(概要)

	西條和佳子委員	住吉智子委員	山賀昌子委員	阿部由幸委員	井下田恵美子委員	小林由美委員	鈴木信義委員	鶴巻ヨシ子委員	中澤幸子委員
1 基本理念	現計画のままでも良いが、文字だけだと「協働」の具体的なイメージがつかめない。「市民・事業者・市がともに行動し、ともに <u>つくる環境先進都市</u> 」といったように噛み砕いた表現も考えられる。	「環境先進都市」「創造」の用語を使用し、大変に高い理念を持っていると感じている。また「協働」と「ともにつくる」は表現が二重になっているとも感じる。基本に立ち戻り、実現可能性のある表現でも良いかもしれない。	国の施策でも大きく出ていること、4月の課名変更で市の考えにも反映している。「循環社会」という考え（言葉）を出していくのがいいと思う。		変更しなくて良い	本市は政令市 20 市中ごみ排出量が 16 位。他政令市に比べごみ排出量が多く、憂慮すべき喫緊の課題。その実現の為に市民・事業者・行政（市）の連携が不可欠と考える。	新潟市として循環社会を形成できることを強みに訴えられると良い。	「ごみ処理の基本理念」変更なし	市民はごみ減量に関してや有料ごみ袋に関しての理解、協力は備わってきたと思う。事業者（飲食関係）の食品ロス削減に関しての理解と宴会などでの、配慮が必要になってきている。
2 数値目標	①グラム表示と%表示を併記してはどうか。 ②どこまで減量するのが望ましいのか、根拠を示した上で提示するのが大切。 ③リサイクル率を上げるためには消費行動から考える必要があるが、市民にどこまで求める事ができるのか限界値の設定が必要かもしれない。 ④最終的に求める処分量はどの程度か、理由と併せて示すことが大切ではないか。 ⑤参考指標については、計画を市民に説明し、納得してもらえる材料となるよう提示してもらいたい。	項目を少なくしても良いように思う。ごみ総排出量でも良いかもしれない。家庭と事業、全体的に下げることを目下の目標とするのはどうかと考える。	数値目標の方向性については現在のままで良い。廃棄物分野の CO ₂ 排出量も気になっていたので、参考指標として入れることで良い。	家庭系・事業系食品ロス排出量の把握と数値目標の検討。	①目標は必要。目に見えるかたちで減らす量を示してほしい。 ②日本は見た目を重視しているので、同種の企業間で連携し、すこしでも少なくしていただきたい。 ③外国へ輸出している物もあるので、区別してほしい。	それぞれの数値目標（最終目標値）の設定理由（根拠）の説明が必要ではないか。	今回は達成が難しいようですが、現状の考え方を継続して考えていくことが良い。	現在の同じ項目でよい	リサイクル率について、もっとも目標を高く持つていい。家庭ごみは、簡単には減らせないので、現状のままで、さらに努力するという文言が良い。
3 基本方針	1：子ども向けの取組みや、ごみ出し困難者への支援など、三者協働を基本に市がリーダーシップをもって取り組む姿勢を更に示しても良い。 2：単にごみあるいは資源として「回収」するのではなく、「利活用」を企業に促すような取組みがあっても良い。 3：「違反ごみ対策」と「きれいなまちづくり」は対象が異なると思うが、対象の異なるものは異なるものとして示しても良い。 4：ごみの収集・処理は、市民に対して十分な周知をしてもらいたい。災害時のごみ対策については平常時のうちに十分なシミュレーションを望みたい。	手広く実施されていることは素晴らしいと思うが、今後は重点化することも必要かと思う。基本方針 1 と 4 を合体させても良い。基本方針 1 は基本方針 3 に入れることができる。広報とともに、収集体制の強化・分別によるごみの排出量の低減に繋がられると良い。	廃棄物として発生してからどうするかではなく、モノの生産や流通のところから変えていく必要がある。（過剰包装や食品の売れ残りを捨てることなど）SDGs は「目標」という形ではあるが、市の計画にどのように反映させていくか気になると思うので、今後考えていきたい。	家庭で出来る食品ロスの削減取組の推進。	基①市民への PR が足りない。高齢者には外国語をあまり多用しない方が良い。 基②企業も環境に無関心な所は生きのびて行かないのでは。 基③これでよい。 基④これでよいと思うが、これで生活している人もいると思うと複雑。	今後も家庭・事業者からの排出抑制に努める必要があるが、日本のリサイクル方法だけでは不足と感じる。リサイクル先進国のドイツや韓国、デンマーク、オランダ等の施策も参考にしたい。 個人的意見としては…①事業者責任による回収制度を取り入れ使い捨て容器に規制をかける、②生ごみ収集日を週 2 回に減らす、③ 4R (Refuse) 不要なものはいらない！と断る。	これからの未来には 2R 推進が良い。他は現状通りで良い。	全体項目、基本方針変更しなくてもよい。	
4 その他	身近な暮らしの 1 シーンから、世界へ、次代へと目を向けることが非常に多いのが廃棄物の問題と痛感した。ぜひ子どもたちに、廃棄物について楽しみながら考え学び行動する機会を創って頂きたい。それとともに、廃棄物に関わる行政や業者の方々の労に報いるよう行動しなくてはならない。			田園型拠点都市を都市像にもつ新潟市において地域資源を活かす施策の積極的な取組み。		名古屋市は「ごみ非常事態宣言」(1999) から今年で 20 年経つが、市民・事業者・行政の協働のもとで大幅なごみ減量を達成している。230 万人名古屋市民ができて新潟市ができないはずはない。市民・事業者・行政が同じテーブルで共に悩み試行錯誤を繰り返しながら一つひとつ解決していく「新潟スタイル」が近い将来見られる事を期待している。	他政令市との比較で順位が低いが、集計方法や海岸線のごみが入っているためではないか。家庭ごみについての単純比較は難しいが、取組みは進んでいる。	リデュース、リユースの分かりやすいキャッチフレーズに表示。生ごみ「堆肥化」は良い案だが、住宅地での現実には私的には難しく、集積の時点で分別をする方法。学校のみならず公共施設（調理室使用時）での生ごみ分別。	